

令和4年度 学校評価報告書

小樽市立奥沢小学校
校長 銭谷 美毅

1 本年度の重点目標

みんな笑顔でぼっかぼか進んで行動おくさわの子

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
			評価	取組状況	
1 未来を創る力の育成	確かな学力の育成	国語・算数がわかると回答した児童の割合85%以上にする。	A	授業スタイルをできるだけ統一したり、指導方法を工夫したりした。国語がわかると回答した児童93%、算数がわかると回答した児童86%であり、どちらも目標の85%を上回ることができたが、児童の実態から考えると、更なる取組が必要である。	◎
	特別支援教育の充実	児童の実態交流を年3回以上行う。個別の指導計画の作成80%以上	A	・児童の実態交流は年2回の学級経営案交流時、毎職員会議後に実施した。 ・特別支援学級に在籍する児童・通級に通う児童の個別指導計画作成率100%、通常学級に在籍する支援が必要な児童の実態や支援の方法等を記した計画表作成率100%	◎
	国際理解教育の充実	外国語(活動)が好きと回答する児童の割合85%以上	A	ALTの有効活用を努めた。外国語が好きと回答した児童が92%、外国語でコミュニケーションをとることが楽しいと回答した児童が90%おり、外国語(活動)に意欲的に取り組んでいるという結果となった。	◎
	理数教育の充実	算数が好きと回答する児童の割合85%以上	B	算数の授業研究を年間を通して行った。算数が好き、楽しいと回答した児童が81%であり、目標の85%には到達できなかった。	○
	情報教育の充実	情報モラル教室を全学年で実施	A	外部講師を招き、全学年で情報モラル教室を実施した。今年度はラインなどによる大きなトラブルは発生しなかったが、情報モラルの育成は急務である。	◎
	キャリア教育の充実	学年における外部講師や地域施設の活用100%	A	コロナ禍ではあったが、今年度は全学年で外部講師や地域施設を活用し、児童の興味や関心、意欲を喚起することができた。	◎
改善方策	今年度の全国学力・学習状況調査の結果は、国語・算数・理科の全てで全国平均を超えた。しかし、学力については学年によってもばらつきが見られる。そのため、児童の実態に合わせて更なる授業改善を図っていく必要がある。特に算数については、校内研修を充実させ、「算数が好き」と回答する児童の割合を85%以上にする。情報教育の充実については、情報モラル教室を全学年で継続的に実施していく必要がある。				
学校関係者評価委員による意見	●目標数値と実数値の乖離は許容範囲と考える。●全国学力調査などの成績は素晴らしい。●学年、学級の差を無くそうとしている先生方の努力は先日の参観で伝わってきた。そういう機会を増やしてほしい。情報モラルについては子どもたちだけではなく、大人も勉強していかなければならないと考える。●目先の結果にこだわらず、自ら思考する力を身に付けさせてほしい。				
2 豊かな心の育成	道徳教育の充実	「友だちのよいところを見つけよう」と回答する児童85%以上	B	教師が率先して児童のよさを捉えることに心がけると共に、お互いを認め合う機会を意図的に設定した。児童アンケートで「友だちのよいところを見つけよう」と回答した児童の割合は82%であり、目標の85%には若干届かなかった。	○
	ふるさと教育の充実	外部講師や地域の施設等を活用したふるさと小樽に関する教育を全学年で行う。	A	コロナ禍ではあったが、外部講師や地域の施設等を活用したふるさと小樽に関する教育を全学年で行うことができた。また、今年度は潮ねこみにも参加することができた。	◎
	読書活動の推進	読書を全くしない児童の割合を20%以下にする。(R3全国調査による平均24%)	A	本校の司書教諭や図書館司書、ボランティアが中心になって、読書環境を整え、児童の読書習慣を育んだ。児童アンケートで、読書を全くしない、ほとんどしないと回答した児童の合計が17%だった。	◎
	体験活動の推進	ボランティア活動や体験活動を全学年で行う。	A	児童会中心に赤い羽根共同募金に取り組んだり、校舎敷地内のごみ拾いにも取り組んだりした。また、各学年において様々な体験活動にも取り組むことができた。	◎
	コミュニケーション能力の育成	対話を意識した授業づくりをしていると回答する教師の割合80%以上	A	算数科を中心に、ペア交流やグループ交流、全体交流を取り入れた授業に積極的に取り組んだと回答した教師が100%だった。子どもたちのコミュニケーション能力は育ってきているが、継続的な指導が必要である。	○
	いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	「いじめは、どんなことがあってもいけないこと」と回答する児童の割合100%	B	道徳科を中心に、全教育活動を通じていじめはどんなことがあってもいけないことであることを指導してきた。児童アンケートで「いじめは、どんなことがあってもいけないこと」と回答する児童の割合が98%だった。	○
改善方策	児童を褒める、認める、価値づける取組を今後も継続し、自己肯定感を高める。自分に自信が持てるようになると、他者へのかかわり方も変わっていくと思われる。いじめについては、98%の児童が「絶対にしてはいけないこと」と認識している。今後も道徳科を中心に全教育活動を通じて継続して指導をしていく。授業中や行事など、教育活動全体の中で、児童が表現する機会を意図的、計画的に設け、児童の行動を価値づけて、表現することに対する自信や関心をもたせる。				
学校関係者評価委員による意見	●豊かな心の育成については、日々の指導の中で人格を尊重する指導を繰り返して行うことが大切だと思う。●「いじめは、どんなことがあってもいけないこと」と回答する児童の割合が98%とあったが、残りの2%がどのような考えなのか気になった。●コミュニティ・スクールを進めていく上で、先生たちには負担が増えると思うが、もっと地域や保護者との連携や交流を増やして、明るく楽しく学校生活を送れる環境づくりをしてほしい。				

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価	
			評価	取組状況		
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	体育が好きと回答する児童の割合を95%以上にする。	B	体力・運動能力テストを全学年で実施し、児童の運動に対する意欲付けを行った。また、全学年で統一した準備体操を行ったり、休み時間はできるだけで体を動かすように全校で取り組んだり、体力向上改善プランに基づいて取組を進めた。児童アンケートで体育が好きと回答した児童が93%であった。目標までは若干届かなかった。	◎
		食育の推進	朝食を食べてこない児童の割合を0%にする。	B	朝食を食べることの重要性を子どもたちにはもちろん、保護者向けにも学校だよりや保健便りなどを活用して発信してきた。児童アンケートで朝食を「あまり食べない」「食べない」と回答した児童が4%いた。目標までは若干届かなかった。	○
		健康教育の充実	早寝・早起き・朝ごはんなど、基本的な生活習慣が身につけていると回答する保護者の割合85%以上	B	早寝・早起き・朝ごはんなど、基本的な生活習慣が身につくよう、学校だよりや保健だよりなどを活用して保護者へ啓発した。また、長期休業中には生活リズムチェックシートを活用した基本的な生活習慣づくりにも努めてもらった。保護者アンケートで、基本的な生活習慣が身につけていると回答した保護者の割合が87.3%だった。基本的な生活習慣の確立については改善傾向が見られるが、遅刻してくる児童が多い。	○
改善方針		健やかな体の育成については、3項目ともB評価となった。まずは、体力向上改善プランを見直し、児童の体力向上を図っていく。「早寝・早起き・朝ごはん」の指導については、保護者アンケートの結果からみると、改善傾向が見られる。基本的な生活習慣の育成については、ねばり強く、継続的に保護者へ働きかけていくことが重要である。そのため今後も、学校だより、保健便り、HP、保護者会や面談等を活用して啓発活動に努めていく。				
学校関係者評価委員による意見		●嫌いな教科が一つ二つくらいあってもよいのではないかと。●3項目ともB評価だが、コロナ禍の制約の中では致し方ないと思う。●家庭での様子を知り、保護者との連携を図ることはなかなか大変なことと思われた。●この項目は大人になって一番影響がある部分だと思う。子どもの頃の習慣が大切なので、家庭での取組が一番大切だと思う。学校と協力して進めていく必要がある。●保護者も含めて基本的な生活習慣が身につくよう繰り返し指導することが必要だと思う。				
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	生活リズムチェックシートを2回以上活用する。	B	夏休み、冬休みの長期休業中に生活リズムチェックシートの活用を家庭に呼びかけて、基本的な生活習慣の確立を促しているが、もう少し活用率を上げる必要がある。その他、家庭学習の仕方を記した「家庭学習のてびき」を家庭に配布している。	○
		学校と地域の連携・協働の推進	学校支援ボランティアの活用を10回以上にする。	A	図書及び学習に関するボランティアを年間17回活用するなど、活用がかなり進んできた。図書ボランティアの活用を通して、本に興味を持つ児童が増えてきた。	◎
改善方針		コミュニティ・スクールを導入して3年が過ぎる。1年目、2年目はコロナの影響もあり、取組が思うように進まなかったが、3年目となる今年度は、図書ボランティアの活動を中心に取組が進んできた。今後も学習支援ボランティアや安全ボランティアなどによる取組の強化に努める。				
学校関係者評価委員による意見		●家庭との連携、地域との連携の協働のメニューの多様化が必要ではないかと。●自分自身がボランティア活動にあまり参加できず反省している。今後はできる範囲内で参加していきたい。●家庭や地域との連携については、全てをコロナの影響にはしていないと思う。そういう時こそ、コミュニティ・スクールなのではないかと思う。小樽は全国・全道に比べてもかなり遅れているので失敗を恐れずどんどん進めてほしい。●地域の会合などで、学校の考え方を説明してもらう機会があるとういと思う。				
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	全教職員が向陽中学校の研究会に参加する。	B	奥沢小学校、向陽中学校、お互いの研究会にはほぼ全員が参加し、授業を参観した。授業後には、研究協議を行い、それぞれの立場から意見交流を行った。	◎
		教育環境の整備・充実	タブレット等、ICT機器を積極的に活用していると回答する職員の割合80%以上	B	ミニ研修を行うなど、タブレットの活用方法について学び合ってきたが、積極的に活用する職員と、そうでない職員の差が出てきており、タブレット等を積極的に活用していると回答する職員の割合が80%以下だった。今後更なる取組が必要である。	○
		教職員の資質・能力の向上	全教職員が校外の研修会、研究会に参加する。	A	全職員が年1回以上、郊外での研修会や研究会に参加し、研鑽を積むことができた。	◎
		学校運営の改善	学校経営の改善に対する教職員の肯定的回答率70%以上	A	会議の持ち方や日課表の工夫など、業務の効率化やスリム化を図った。職員アンケートで「学校運営が改善したか」の設問で肯定的な回答をした職員の割合が87%であったが、更なる工夫、改善が必要である。	◎
		学校安全教育の充実	各種訓練を年4回以上行う。	A	事前事後の手洗いや、人と人の距離を開けるなど、様々な感染対策を講じて避難訓練や集団下校訓練を実施することができた。	◎
改善方針		来年度も小中お互いの研究会へ全員が参加できる体制を整える。また、教員のChromebook活用に個人差が見られるため、全ての教員がChromebookを積極的かつ効果的に活用できるように、資料の提供をはじめ、研修機会を確保していく。				
学校関係者評価委員による意見		●小中合同の研究会に参加し、先生方の前向きな意欲を感じた。●タブレットの活用については得意、不得意はあるだろうと思うが、子どもは慣れるのも早いと思うので、先生自身が苦手意識を持たずにどんどん取り組んでほしい。●教員の業務の多忙化を解消していくことは必要だと思うが、働き方改革はあくまで、教員が子どもと向き合う時間を確保するためのものだとすることを忘れないでほしい。				
社会教育に関連する目標(目標6～8)		図書館、総合博物館、文学館、美術館をそれぞれ年1回以上活用する。	A	図書館、総合博物館などの施設を、それぞれ年1回以上活用することができた。	◎	
改善方針		図書館や総合博物館の他、利用できる施設の情報を得て、有効的に活用をしていく。				
学校関係者評価委員による意見		●各種社会教育施設及び学芸員の積極活用を期待する。●市の施設は家庭でも利用できるが、保護者がなかなか連れていけない学校での活用がきっかけで知り、また行きたいと思う、そんな学びにつながるとういと思う。				